

主治医意見書

記入日 令和 2 年 12 月 25 日

申請者	(ふりがな) かい ふじお	男	〒 400 -
	甲斐 富士夫		山梨県A市〇〇町1-2-3
	明・大・(昭) 17年8月20日生(80歳)		連絡先 055(000)0000

上記の申請者に関する意見は以下の通りです。
 主治医として、本意見書が介護サービス計画作成に利用されることに 同意する。 同意しない。
 医師氏名 田中 朗
 医療機関名 Cリハビリテーション病院 電話 055(〇〇〇)〇〇〇〇
 医療機関所在地 山梨県E市〇〇町〇丁目-0-0 FAX 055(△△△)△△△△

(1) 最終診察日	令和 2 年 12 月 25 日
(2) 意見書作成回数	<input checked="" type="checkbox"/> 初回 <input type="checkbox"/> 2回目以上
(3) 他科受診の有無	<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 (有の場合) → <input type="checkbox"/> 内科 <input type="checkbox"/> 精神科 <input type="checkbox"/> 外科 <input type="checkbox"/> 整形外科 <input type="checkbox"/> 脳神経外科 <input type="checkbox"/> 皮膚科 <input type="checkbox"/> 泌尿器科 <input type="checkbox"/> 婦人科 <input type="checkbox"/> 眼科 <input type="checkbox"/> 耳鼻咽喉科 <input type="checkbox"/> リハビリテーション科 <input type="checkbox"/> 歯科 <input type="checkbox"/> その他 ()

1. 傷病に関する意見

(1) 診断名(特定疾病または生活機能低下の直接の原因となっている傷病名については1.に記入)及び発症年月日

1. 塞栓性脳梗塞	発症年月日 (令和 2 年 11 月 18 日頃)
2. 下肢静脈血栓症	発症年月日 (平成 24 年 2 月 日頃)
3. 本態性高血圧症	発症年月日 (昭和 60 年 月 日頃)

(2) 症状としての安定性 安定 不安定 不明
 (「不安定」とした場合、具体的な状況を記入)

(3) 生活機能低下の直接の原因となっている傷病または特定疾病の経過及び投薬内容を含む治療内容
 [最近(概ね6ヶ月以内)介護に影響のあったもの及び特定疾病についてはその診断の根拠等について記入]

本年11月18日、自宅で倒れ脳梗塞発症し入院。点滴治療後リハビリ目的で本院に転院。左半身麻痺があったが、車いす操作や杖歩行が可能になっている。言語も意思疎通が何とかできるレベルに回復。嚥下機能も回復し、食事中的ムセも少なくなっている。

ランソプラゾール 15mgOD 1錠・朝1回(食後) ワルファリンカリウム錠 2.5錠・朝1回(食後)
 ニフェジピン 20mgCR 2錠・朝1回(食後) アジルサルタン錠 2錠・朝1回(食後)
 カルジノゲナーゼ錠 1錠・朝1回(食後)

2. 特別な医療 (過去14日間以内に受けた医療のすべてにチェック)

処置内容	<input type="checkbox"/> 点滴の管理	<input type="checkbox"/> 中心静脈栄養	<input type="checkbox"/> 透析	<input type="checkbox"/> ストーマの処置	<input type="checkbox"/> 酸素療法
	<input type="checkbox"/> レスピレーター	<input type="checkbox"/> 気管切開の処置	<input type="checkbox"/> 疼痛の看護	<input type="checkbox"/> 経管栄養	
特別な対応	<input type="checkbox"/> モニター測定(血圧、心拍、酸素飽和度等) <input type="checkbox"/> 褥瘡の処置				
失禁への対応	<input type="checkbox"/> カテーテル(コンドームカテーテル、留置カテーテル等)				

3. 心身の状態に関する意見

(1) 日常生活の自立度等について

- ・障害高齢者の日常生活自立度(寝たきり度) 自立 J1 J2 A1 A2 B1 B2 C1 C2
- ・認知症高齢者の日常生活自立度 自立 I IIa IIb IIIa IIIb IV M

(2) 認知症の中核症状(認知症以外の疾患で同様の症状を認める場合を含む)

- ・短期記憶 問題なし 問題あり
- ・日常の意思決定を行うための認知能力 自立 いくらか困難 見守りが必要 判断できない
- ・自分の意思の伝達能力 伝えられる いくらか困難 具体的要求に限られる 伝えられない

(3) 認知症の周辺症状(該当する項目全てチェック:認知症以外の疾患で同様の症状を認める場合を含む)

無 有 { 幻視・幻聴 妄想 昼夜逆転 暴言 暴行 介護への抵抗 徘徊
 火の不始末 不潔行為 異食行動 性的問題行動 その他 ()

(4) その他の精神・神経症状
 無 有 [症状名: 専門医受診の有無 有 () 無]

(5) 身体の状態

利き腕 (□右 □左) 身長=163 cm 体重=50 kg (過去6ヶ月の体重の変化 □増加 維持 □減少)
四肢欠損 (部位: _____)
麻痺 □右上肢 (程度: □軽 □中 □重) □左上肢 (程度: 軽 □中 □重)
右下肢 (程度: □軽 □中 □重) □左下肢 (程度: 軽 □中 □重)
その他 (部位: _____ 程度: □軽 □中 □重)
筋力の低下 (部位: 両上下肢及び体幹 程度: □軽 中 □重)
関節の拘縮 (部位: _____ 程度: □軽 □中 □重)
関節の痛み (部位: _____ 程度: □軽 □中 □重)
失調・不随意運動 ・上肢 □右 □左 ・下肢 □右 □左 ・体幹 □右 □左
褥瘡 (部位: _____ 程度: □軽 □中 □重)
その他の皮膚疾患 (部位: _____ 程度: □軽 □中 □重)

4. 生活機能とサービスに関する意見

(1) 移動

屋外歩行 □自立 □介助があればしている していない
 車いすの使用 □用いていない 主に自分で操作している □主に他人が操作している
 歩行補助具・装具の使用(複数選択可) □用いていない 屋外で使用 屋内で使用

(2) 栄養・食生活

食事行為 自立ないし何とか自分で食べられる □全面介助
 現在の栄養状態 良好 □不良
 → 栄養・食生活上の留意点 (塩分制限1日6g)

(3) 現在あるかまたは今後発生の可能性の高い状態とその対処方針

尿失禁 転倒・骨折 移動能力の低下 □褥瘡 心肺機能の低下 □閉じこもり 意欲低下 □徘徊
低栄養 摂食・嚥下機能低下 □脱水 □易感染性 □がん等による疼痛 □その他 (_____)
 → 対処方針 (_____)

(4) サービス利用による生活機能の維持・改善の見通し

期待できる □期待できない □不明

(5) 医学的管理の必要性(特に必要性の高いものには下線を引いて下さい。予防給付により提供されるサービスを含みます。)

訪問診療 □訪問看護 看護職員の訪問による相談・支援 □訪問歯科診療
訪問薬剤管理指導 訪問リハビリテーション □短期入所療養介護 □訪問歯科衛生指導
訪問栄養食事指導 通所リハビリテーション □その他の医療系サービス (_____)

(6) サービス提供時における医学的観点からの留意事項

・血圧 □特になし あり (服薬、塩分制限) ・移動 □特になし あり (下肢筋力低下、転倒防止)
 ・摂食 □特になし あり (左半側無視あり) ・運動 □特になし あり (バランスが悪い)
 ・嚥下 特になし □あり (_____) ・その他 (_____)

(7) 感染症の有無(有の場合は具体的に記入して下さい)

無 □有 (_____) □不明

5. 特記すべき事項

要介護認定及び介護サービス計画作成時に必要な医学的など意見を記載して下さい。なお、専門医等に別途意見を求めた場合はその内容、結果も記載して下さい。(情報提供書や身体障害者申請診断書の写し等を添付して頂いても結構です。)

軽度の左半身麻痺と歩行バランスの悪さがあり歩行が不自由。全身の筋力が回復すればバランスは改善される。食事をしっかり摂り、リハビリを続けることで機能は向上する。言語は若干の意思疎通の困難さがあり。入院当初はせん妄が見られたようだが、現在は問題なし。血圧には気をつけ塩分制限1日6gを守ること。